

様式 7

「学校」部門

河川基金助成事業

「『小糸魚川』の水辺における 子ども達の川について学ぶ体験活動」 報告書

助成番号：2021 - 7211 - 005

北海道苫小牧市立澄川小学校
学校長 前田直樹

2021 年度

助成番号		助成事業名			学校名		
2021-7211-005		「小糸魚川」の水辺における子ども達の川について学ぶ体験活動			北海道苫小牧市立澄川小学校		
校長名		前田 直樹		担当教諭名		高取 有子	
過去の助成実績		なし (あり) (助成番号：2020-7211-005)		助成事業名：「小糸魚川」の水辺における子ども達の川について学ぶ体験活動			
キーワード		川遊び, 水棲生物採取, 新聞作り					
対象児童生徒		高校生 (年 名) 中学生 (年 名) 小学生 (3年82名)					
対象河川名		小糸魚川	活動場所の指定状況		なし 子どもの水辺 水辺の楽校		
年間学習計画 (シラバス) における本助成事業の位置づけ							
<p>テーマ : 小糸魚川探検隊 (環境・防災)</p> <p>ねらい : 環境を大切にすることや自然とともに生きていくことの大切さに気付く。 川の生態系を肌で感じて知識を得ることにより、食物連鎖のしくみを知り、他教科へ活かす。 川での安全確保について知り、災害の時など自らの判断で行動に移すことができる能力を身に付ける。</p> <p>評価の観点 : 小糸魚川の環境をテーマに自らの課題を設定し、収集した情報を整理できたか。 調査・体験活動での学びを通して、小糸魚川の特徴を捉え、興味関心を深めることができたか。 川での安全確保について理解し、ルールを守って行動できたか。</p> <p>活動時期 : 7月～11月</p>							
活動形態		総合的な学習の時間	各教科学習 ()	各教科学習 ()	学校行事	その他 ()	合計
上記の活動時間数		30時間	時間	時間	時間	時間	時間
支援者等 (複数記入可)							
保護者		外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	(市民団体)	専門家等
河川管理者		(行政機関(博物館、資料館)等)		関係団体 (漁協、農協)等		企業	その他
支援概要		全員分のライフジャケットの借用、及び運搬、返却。 川の学習におけるリスクについての事前学習会の講師。 当日、現場の事前調査。ボランティアによるサポート人員の確保。					
活動成果		発表形態			成果作品		
		(学級単位) 対外発表 ()	学年単位	学校全体	「個人新聞」		
安全対策に関する課題							
<ul style="list-style-type: none"> ・台風等による河川の増水や気温の低下に対する配慮が必要のため、気温の低下や増水を考慮し、8月最終週～9月第1週を実施日に設定するのが望ましい。また、河川の増水量を考慮し、実施予定日から一週間後を予備日とするのが望ましい。 ・当日の気温が低い場合の寒さ対策。 ・事故防止のための人員確保。緊急時の対応体制。 							
活動の成果と今後の課題・展開							
<p>【成果】①身近な自然に触れ、生命の大切さを直に知る良い機会となった。(体験後の魚・生き物の飼育)</p> <p>②採集した生き物の観察により生態系への興味関心を深め、設定した課題を進んで解決することができた。</p> <p>③それぞれまとめ方を工夫し、自分の思いや願いを含めた成果物 (個人新聞) を作り上げることができた。</p> <p>【課題】・水温や水質の管理に専門的な知識や環境が必要であるため、採集した生き物の生命維持が難しい。</p> <p>【展開】・道徳科「こころの授業」では、ウトナイ湖野生鳥獣保護センターの獣医師を招き、環境・自然に対する畏敬の念を育てる機会を設ける。また、総合的な学習では、5年生の宿泊学習にて、沢登り体験 (環境・防災) を行い、日高町沙流川と小糸魚川との比較を行う。そして6年生での『ハザードマップ作り』(防災教育)へ繋げられるよう、日頃から「小糸魚川」について関心をもてるような取組を行う。</p>							
活動内容と実施時期 (主な活動を2つのみ記入)							
		部門	大分類	中分類	小分類	実施時期	
データベースに登録する活動分野		(学校部門)	教育活動	体験活動系	川遊び	9月	
				生物調査系	魚類	9月	

*データベースに登録する活動分野は、本冊子P. 46の活動分野一覧表から代表的なものを2つ記入して下さい

教育計画書(単学年)

学校名	北海道苫小牧市立澄川小学校
1.助成事業名	「小糸魚川」の水辺における子ども達の川について学ぶ体験活動
2.河川教育の目標	・環境を大切にすることや自然と共に生きていくことの大切さに気付くことができる。 ・川の生態系を肌で感じて知識を得ることにより、食物連鎖の仕組みを知り、他教科へ活かすことができるようにする。 ・川での安全確保について知り、災害の時など自らの判断で行動に移すことができる能力を身に付ける。
3.学年/人数	第3学年 85名
4.活動場所	苫小牧市内 小糸魚川親水公園及び苫小牧市立澄川小学校(3年生各教室・体育館・PCルーム・理科室)
5.単元構想(総時間数)	30時間

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
---	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----

学年単元目標				課題の設定 総合的な学習の時間(7時間) ・校歌にも出てくる「小糸魚川」に触れ、苫小牧市内に流れている川について知る。	課題の追求 総合的な学習の時間(4時間) ・川の調査に出かけ、生き物について興味をもつ。 ・環境を大切にすることや自然と共に生きていくことの大切さに気付く。	情報の収集 整理・分析 総合的な学習の時間(13時間) ・自分の関心から課題を設定し、解決方法を考える。 ・調べて分かったことを、視点を決めて分類する。	まとめ・発表 次年度へ引き継ぎ 総合的な学習の時間(6時間) ・課題を解決した成果を伝える。 ・IT機器を活用し、まとめたものを地域へ発信する。(オンライン授業)					
--------	--	--	--	---	---	--	---	--	--	--	--	--

主な学習活動	児童の実態として、非常に生き物に興味があり、飼育してみたいという思いや願いをもっている。実際に川で捕獲した生き物の飼育を通して、どんなものを食べているのか、どんな環境だと長生きする(死なない)のかなど、自ら考え、取り組む力が育ってきたと考えられる。	・専門家(いぶり自然学校)の方を講師にお招きし、小糸魚川を含む苫小牧の川について学ぶ。 ・川で安全に活動するための道具や装備について説明を受け、知識としてしっかりと身に付け、安全に活動する意識を育てる。 ・新聞やテレビのニュースで、河川が氾濫して災害になったことを想起させ、小糸魚川や他の市内の川でも過去にそういうことがあったか、興味をもたせる。	・専門家と一緒に川遊びをしながら、川に生息している生き物に興味を持たせる。 ・川の周辺の環境にも着目させ、どうしてこの川は冷たいのか、サケが遡上してくると聞くがどういうことか、など、興味を持たせる。 ・プラウトラウトなどの外来種について知り、生息地域や生態を調べる。	・川の活動を通して自分たちの興味関心に合わせてグループで調べ学習を行い、まとめる。 <新聞作り、壁新聞、レポート作りなど> ・過去の河川が氾濫した災害の映像を見るなど、生き物が生息している川という視点以外からも、川について知識を深める。	・一緒に川の現地調査に出かけたゲストティーチャーを招き、自分たちのまとめたものを伝え、好評をいただく。(オンライン授業) ・お互いの発表を見合うことで、「小糸魚川」の素晴らしさや新たな課題に気付く。 ・捕獲した生物を飼育し校内展示をすることで、他の学年に興味をもってもらうとともに、生物の命を大切にすることを育てる。	4年生の社会科(地域学習)「のびゆく苫小牧」に関わり、川→海...港街という視点をもてるように、川の学習の導入で工夫をする。市内を流れる川について学習した場合、どうしてそんなにたくさんあるのか...など、疑問を膨らませ、それぞれの課題を「夏休みの自由研究」などで取り組めると良い。
--------	--	---	---	--	--	--

育成したい能力	1年生では「錦多峰川親水公園」に出かけ、水辺に親しみをもつ。	2年生では遠足の際、錦多峰川へ出かけている。身近にある川と周辺の様子について、興味をもたせ、川の学習へつなげる。	・苫小牧市内の川は入ることすら許されず、一部に遊水ゾーンがある川も限られており、川で遊んだ経験のある児童は皆無である。そこで、夏休みなどの海での遊びや、近隣の湖での遊びを想起させ、これから学習する内容に興味関心を持ち、解決しようとする力	・体験活動から自分の追求していく課題を作り出す力 ・小糸魚川の生き物やそれを取り巻く環境、人々との関わりについて調べようとする力 ・外来種が生息していることを知り、絶滅危惧種(在来種)との関わりを追求する力	・地域の自然と自分たちの生活が関わっていることに気付く力 ・地域の方や祖父母にインタビューするなど、取材の手法を学んだり、パンフレットやリーフレットを作成するなど表現方法について学ぶ力	・さまざまな発表を聞き、自分の考えと比較する力 ・いろいろな生き物や今後の課題などを、観点を設定して分類する力 ・伝える相手を考え、場に応じた言葉遣いをする力(国語科)	5年生の理科「流れる水のはたらき」につなげられるように、流れの強さにも着目させる。宿泊学習で体験する「沙流川の沢登り」につながるような活動に心がける。	6年生の総合的な学習の時間で学習する防災マップや、ハザードマップ作りに経験を生かす。	中学校
---------	--------------------------------	--	--	---	---	--	---	--	-----

単学年 活動報告書

1.助成事業	「小糸魚川」の水辺における子ども達の川について学ぶ体験活動		
学校名	苫小牧市立澄川小学校	助成番号	2021-7211-005
2.実施した教科・領域	総合的な学習の時間		
3.実施日時	令和3年7月～令和3年11月		
4.単元目標	環境を大切にすることや自然とともに生きていくことの大切さに気付く。 川の生態系を肌で感じて知識を得ることにより、食物連鎖のしくみを知り、他教科へ活かす。 川での安全確保について知り、災害の時など自らの判断で行動に移すことができる能力を身に付ける。		
5.学年 人数	第3学年 82人		
6.実施場所	小糸魚川 川沿親水公園周辺		
活動指導報告実施内容 第3学年 総合的な学習「小糸魚川探検隊Ⅰ～小糸魚川プロジェクト～」 全30 時			
第1次	学習活動 「課題の設定」～7時間		
	<p>① 前年度の活動の様子から、川の学習へ興味をもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校歌に出てくる「小糸魚川」に触れると共に、市内の川について考える。 ・川の始めや終りは、どこなのか考える。 ・校外学習で小糸魚川へ行き、いくつかのポイントから川の様子を観察し、個人課題を設定する。 <p>② 外部講師の指導による事前学習を行い、小糸魚川での体験学習の見通しをもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験学習に必要な持ち物や注意事項、また、河川での行動の仕方について知る。 ・前年度までの体験学習における川の様子を聞き、児童の意欲付けに繋げる。 ・2年生の時に見学学習で訪れた水族館で見た生き物について思い出し、捕獲した生き物をどのように飼育するか話し合う。 		
第2次	学習活動 「情報の収集」「整理分析」～17時間		
	<p>①外部講師の指導による小糸魚川での体験学習を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフジャケットの着用による安全確保をし、川とふれ合いながら川下りを体験する。 ・魚網を使って川に生息する生き物を捕まえたり、生き物が隠れていた水中の様子を観察したりする。 ・捕獲した生き物を持ち帰り、飼育し観察を続ける。 <p>② 第1次学習活動を振り返りながら、中心的に調べる生物を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1次学習活動を振り返り、新たな気づきや活動を通して疑問に思ったこと等児童一人一人が川の学習に関して課題を設定する。 <p>③ 一人一人が学習課題をもち、調べ学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が川の生き物や環境等に関する学習課題をもち、学校図書館や市立図書館の図書や図鑑、インターネットを活用して調べ学習を行う（ポートフォリオとしてのまとめ）。 ・ワークシートを活用して学習したことをまとめたり、他の児童と調べたことを交流したりして学習を深める。 ・ワークシートをもとに、児童一人一人「川の学習新聞」を作成する。 		
第3次	学習活動 「まとめ・表現」～6時間		
	<p>① まとめた新聞を発表し、活動全体の振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人が「川の学習新聞」を作成し、各学級で発表する。 ・これまでの学習活動を振り返り、新たな気づきや学んだことを全体で確認する。 ・外部講師の方に発表を聞いてもらい、専門的な立場からの好評をいただき、次年度への課題として引き継ぐ。 		

注) 川で学習を行う場合は、時数の横に「川の活動」と記述する。

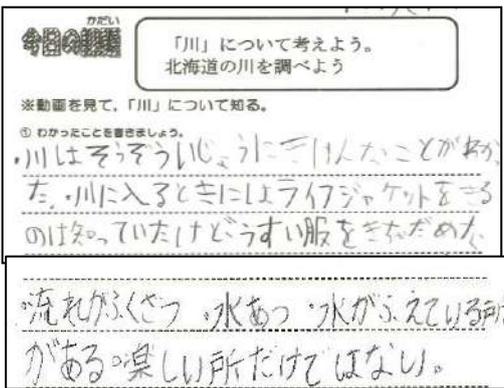
助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2021-7211-005	「小糸魚川」の水辺における子ども達の川について学ぶ体験活動	苫小牧市立澄川小学校 前田 直樹



フィールド：校内（教室）

日付：令和3年7月13日（火）

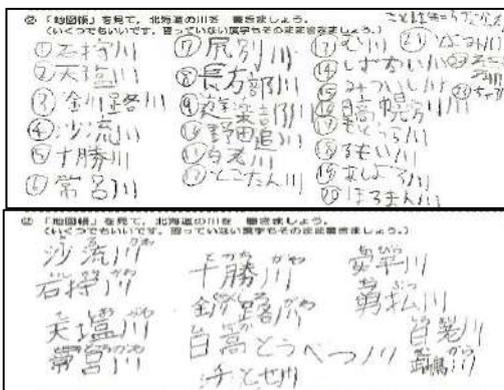
コメント：「小糸魚川探検隊」をテーマに、これから学習していく内容について、パワーポイントの資料を見ながら、学習の流れを学びました。小糸魚川の場所や川へ行ってからの活動、小糸魚川に住む生き物のことなど昨年度の様子から、これから学んでいく内容への意欲と期待を高めました。



フィールド：校内（教室）

日付：令和3年7月13日（火）

コメント：川の動画を見て、川への興味関心を深めました。「すべる」「深い」「流れが速い」「流れがふくぎつになっている」など、あらたに知ったことだけではなく、「川の中はすべりやすい」「あざいところが危ない」など、目に見えないことに気付きました。川に近づく際の注意点などを話し合いながら今後の見通しをもつことができました。



フィールド：校内（教室）

日付：令和3年7月13日（火）

コメント：地図帳を見ながら「北海道の川」について調べました。全道に何か所くらいの川があるのか、長さや大きさはどれくらいか、川と海のつながりは？など、地図帳から分かったことを交流しながら、知識を広げていました。

注）写真は5～6枚程度（枚数が多くなっても、また複数ページになってもかまいません。）

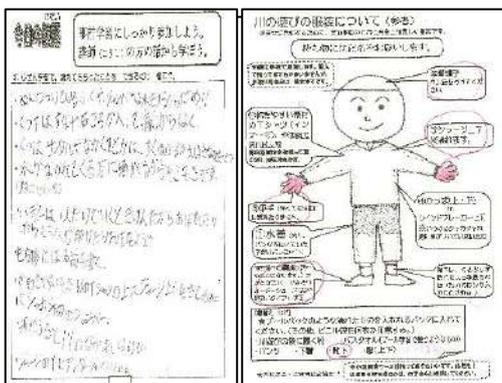
助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2021-7211-005	「小糸魚川」の水辺における子ども達の川について学ぶ体験活動	苫小牧市立澄川小学校 前田 直樹



フィールド：校内（体育館）

日付：令和3年8月25日（水）

コメント：NPO法人いぶり自然学校の職員を招き、事前学習会を行いました。講師から「川で活動するときの服装・持ち物」「川で安全に活動するための注意事項」について説明を聞きました。特に命を守るために必要となるバディの存在については相手をしっかりと確認し、バディを見つける練習を繰り返し行いました



フィールド：校内（体育館）

日付：令和3年8月25日（水）

コメント：講師の話聞きながら、「このような服装が必要な理由」や「活動の留意点」などについて、ワークシートにまとめたり、話し合いをしたりしながら学習を進めました。服装の留意点を確認することで、外気温と川の温度差についての気付きが生まれました。



フィールド：校内（体育館）

日付：令和3年8月25日（火）

コメント：川での魚の捕り方について、グループで考えを出しながら話し合いました。実演を交えながら考えを発表することで、川に住む生き物や魚が上流から下流に流れていくことや岩場の陰などに潜んでいることに気がきました。川に入ったことがない児童が多数いましたが、事前学習を通じて、どの子ども当日への期待を膨らませることができました。

注）写真は5～6枚程度（枚数が多くなっても、また複数ページになってもかまいません。）

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2021-7211-005	「小糸魚川」の水辺における子ども達の川について学ぶ体験活動	苫小牧市立澄川小学校 前田 直樹



フィールド：小糸魚川

日付：令和3年9月2日（木）

コメント：学校から徒歩10分ほどの場所にある川沿公園（親水公園）へ向かいました。現地では、NPO法人いぶり自然学校の職員（3名）が学習を進め、ライフジャケットの正しい装着方法を学びました。コロナウィルス感染症予防のため、川へ入水した活動ができなくなりました。そのため、講師から川での危険箇所を教えて頂き、これまでの川の学習で購入させていただいたタモや観察道具を用いていぶり自然学校の職員や引率教員が川へ入り、魚やヤゴ等の水棲生物を採取する活動へと変更しました。



フィールド：小糸魚川

日付：令和3年9月2日（木）

コメント：体験活動ができなくなったため、川の流れや深さ、水の温度などについて、子ども達ができる限り実感できるよう講師がさまざまな工夫をし、実演を交えながら説明してもらいました。子ども達は、目の前の川の様子や講師の表情などから、動画とは違う川の実態を見たり知ったりすることができました



フィールド：小糸魚川

日付：令和3年9月2日（木）

コメント：講師らが川で採取した魚や教員がタモですくった水草などの中から水棲生物を探して水槽へ移したりするなど、子ども達はできる範囲の中で積極的に活動へ関わりました。購入させていただいた観察用の薄型水槽を活用しました。水棲生物を触る機会が少ないため、触れる・触れないの差はありましたが、友達の様子を見て、活動の挑戦する様子も見られました。

注）写真は5～6枚程度（枚数が多くなっても、また複数ページになってもかまいません。）

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2021-7211-005	「小糸魚川」の水辺における子ども達の川について学ぶ体験活動	苫小牧市立澄川小学校 前田 直樹



フィールド：校内（教室）

日付：令和3年9月2日（木）

コメント：小糸魚川で採取してきた魚などの水棲生物はすぐに水槽へ移し、担任が動画を撮影しました。映像をテレビに映し、その様子を見ながら子ども達はワークシートに観察記録を行いました。廊下に設置した水槽にいる魚たちの様子を見て、細かな模様や色、ヒレなどの形を詳しく観察していました。小糸魚川には、予想以上の種類の魚などが住んでいたことから、もっと調べてみたいと興味を深めていました。



フィールド：校内（教室）

日付：令和3年9月6日（月）

コメント：まとめの新聞作りをするため、継続して観察を行いました。授業以外にも、廊下に並んだ水槽にいる魚たちの様子を興味深く観察していました。理科専科が魚や飼育方法の説明をしたり、小糸魚川の水を汲んだりするなどして、魚の飼育を継続しました。子ども達は、理科専科の説明に熱心に耳を傾け、多くの気付きをもっていました。理科専科は継続して小糸魚川の魚を飼育しています。他学年も観察に来ることが多く、小糸魚川学習への期待を膨らませていました。

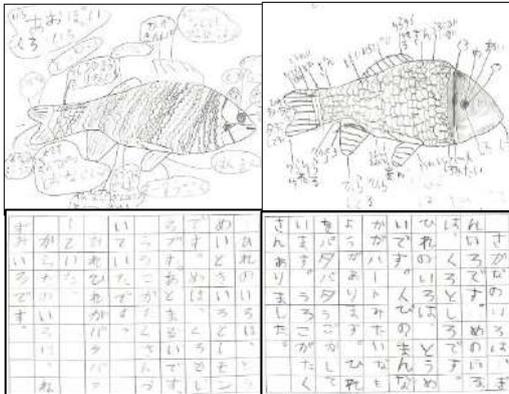


フィールド：校内（教室）

日付：令和3年9月6日（月）

コメント：新聞を作り、教室内で交流しました。新聞には、観察した魚などの様子や小糸魚川に手を入れたときの感想、川全体の様子で学んだことなどをまとめていました。他にも、川のつくりについて調べた記事もありました。川へ入る活動はできませんでしたが、身近な川に親しむことができました。

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2021-7211-005	「小糸魚川」の水辺における子ども達の川について学ぶ体験活動	苫小牧市立澄川小学校 前田 直樹



フィールド：校内（教室前廊下）

日付：令和3年9月～令和4年2月

コメント：他学年にも小糸魚川を知ってもらうために、3年生教室近くに「小糸魚川水族館」をオープンし、小糸魚川で採取した魚を飼育しています。1年生国語「しらせたいな、見せたいな」では、飼育していた魚を貸し出し、知らせたいことを見つけ、文章に書く学習をしました。1年生の視点で、様子をくわしく見て観察していました。



フィールド：校内（理科室前・他学年）

日付：令和3年9月～令和4年2月

コメント：理科室前でもギンブナやモツゴを飼育しています。休み時間になると、3年生はもちろん他学年の子ども達も連日魚を観察しにやってきます。「ひれがゆらゆらしているね。」などと魚の特徴に気付いたり、「今日も（魚が）いた。」と元気に泳ぐ姿に安心したりする姿が見られます。飼育の継続は大変ですが、川の学習に向けて興味関心を高めています。



フィールド：校外学習（5年生）

日付：令和3年7月

コメント：5年生は宿泊学習にて、日高町にある沙流川の沢登りを行います。3年生で学んだことを思い出しながら、より発展的な課題を設定し、体験的な学習を行います。さらに、6年生では苫小牧市の防災マップを作成する活動を通して、地域や自分達の安全を守る防災意識を育てます。

注）写真は5～6枚程度（枚数が多くなくても、また複数ページになってもかまいません。）



発行日
令和3年11月2日
発行所

つめたい小魚川

ななんでフーンななきれ
いなんだ〜

小魚川 思いました。なんでま
川で、バ 思いました。なんでま
ケリに水 思いました。なんでま
ちんもう 思いました。なんでま
とした時 思いました。なんでま
水に手が 思いました。なんでま
つか、て 思いました。なんでま
と、ても 思いました。なんでま
つめたく 思いました。なんでま
て、い、 思いました。なんでま
しん、こ 思いました。なんでま
あること 思いました。なんでま

オジザンガエ
ハナカザカ
オジザンガエ
ハナカザカ



ライフジャケット

ライフジャケットは、
川に入。ている時、
水が強く、ライ
フジャケットが
入。ている時、
水が強く、ライ
フジャケットが

ライフジャケットは、
川に入。ている時、
水が強く、ライ
フジャケットが
入。ている時、
水が強く、ライ
フジャケットが

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2021-7211-005	「小糸魚川」の水辺における子ども達の川について学ぶ体験活動	苫小牧市立澄川小学校 前田 直樹

主な実施箇所

※環境学習を数カ所で行っている場合は、代表的な箇所を2カ所程度記載してください。
 ※ダム等の施設を見学した場合は、当該施設の位置図を記入して下さい。
 (縮尺は1/50万～1/100万程度)

助成事業の主な実施箇所

